

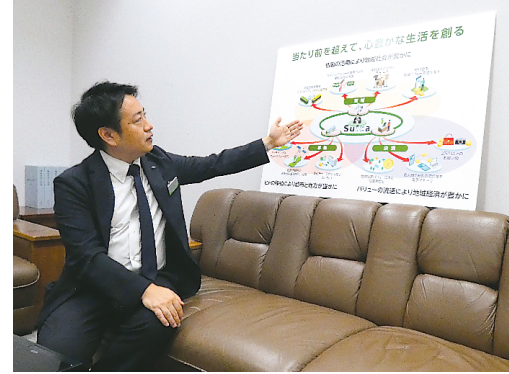
# 革新力

■人の流れを止めない 利用のあり方を大きく変えた。

「Suicaの進化、変えた。生活ぜんぶこれひとつ」。JR東日本のポスターのキャッチコピーが目を引く。今から20数年前、磁気切符が主流だった時代、駅の券売機前には行列。ラッシュ時の改札には限界があった。

## Suicaの当たり前前を超え、生活デバイスにJR東日本

そんな時代、非接触技術を活用して交通の利便性を高めようとする計画がスタート。JR東日本は、人の流れを止めない、一秒一人通過できるという性能を求めてソニーが開発に携わった非接触型ICカード技術方式「FeliCa」を採用。Suicaの導入で、駅の風景は一変。鉄道も当たり前前に使える。ーの個人間送付



今後10年間にわたるSuicaの進化について説明するJR東日本Suica戦略マネージャーの平井辰徳氏

| Suicaの進化計画 |                                    |
|------------|------------------------------------|
| 2026年秋以降   | 上限2万円を超えるコード決済機能、電子マネーの送金機能導入      |
| 2027年春頃    | 在来線でウォークスルー改札実証                    |
| 2028年度     | 「Suicaアプリ(仮称)」導入、サブスク型割引プランの鉄道利用開始 |
| 2028年以降    | 「ご当地Suica(仮称)」導入                   |
| 今後10年以内    | ウォークスルー改札整備、チャージ不要の後払い機能追加         |

ツチすら不要な「ウォークスルー改札」の開発も進めていく。さらに、A地点とB地点を結ぶ、いまの定期券の当たり前を超えていく。例えば、毎月の月額料金を支払うことにより自宅のある大宮駅を起点として、どの駅に行っても、運賃が割引となるサブスク商品の利用が可能となる。

■リアルタイムで暮らしを支える 新サービス計画を支えるのは、JR東日本が進める「センターサーバー化」だ。Suicaの処理データをセンターサーバーで管理する新たなプラットフォームをつくる。これにより、効率的、リーズナブルに様々なサービスを提供できるようになる。子どもが学校帰りにSuicaを使えば、保護者への通知が届く。帰宅時にエアカンや照明を自動オンにする「スマートホーム」との連携も視野にある。

COCA、JR東海の「TOICA」、JR九

2024年12月、JR Suicaでは、上限額(2万円)を超えるお買い物にもご利用いただけるコード決済機能のほかに、家族や仲間との接点を本格化させたいと考えています」と平井氏。

■各地域に根差した新サービス 「Suicaは、移動と決済の2軸で進化してきましたが、地域aを通して自治体と連携した地域密着サービスを提供する。平井氏は、「各地域に根差した生活シーンをDXし、地域が抱える課題を解決するお役に立ちたい」と思っています」と説

「TOICA」、JR九の「SUGOCA」、し、共通で使える環境を築いてきたからだ。今年3月、訪日外国人向けの「Welcome Suica」を公表。JR東日本マーケティング本部(Suica戦略)マネージャーの平井辰徳氏は、「Suicaの当たり前前を超え、生活デバイスに」

2028年度以降、通常のSuicaサービスに加え、Maasと連携した生活シーンも提供していく。

■リアルタイムで暮らしを支える情報基盤「生活デバイス」へと進化する。未来を見据えた挑戦。その根底には、「新しい当たり前を創り、心豊かな生活をつくる」という理念がある。

「FeliCa」を採用。Suicaは、電子マネー機能の搭載で、ショッピングが可能になり、都市でも地方でから利用できる。■バリューや電子マネーの個人間送付

「モバイルを可能にするほか、地域社会のコンテンツ等していく。